

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 長岡市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
秋葉タクシー(株)	栃尾地域(西谷地区ほか) デマンド型乗合タクシー	学生・障害者割引制度や回数券販売を引き続き実施した。すべての便に一定の利用者が見られており、運行内容に大きな見直しはなかった。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標値:400人/月 実績値:388人/月(達成度:97%) 昨年度値:337人/月 1月あたりの利用者400名以上という目標に対し、実績は1月あたりの利用者388名であり、目標を下回った。昨年度からは15%以上増加していることから、生活交通として地域住民に定着しつつあるが、新規利用者の増加が少ないことから、目標値までは達成できていないと考えられる。	学生・障害者割引制度や回数券販売を引き続き実施するとともに、新規利用者が増加するよう、利用促進に努める。地域住民や交通事業者との意見交換の場を設け、利用しやすい運行に向けて検討する。
寺泊交通(株)	和島地域 デマンド型乗合タクシー	実証運行(R2.10~R3.9)において、予約時間帯及び運行便数を見直し、R3.10からの本格運行では利用効率を図ることができる運行内容とした。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標値:45人/月 実績値:47人/月 1月あたりの利用者45名以上という目標に対し、実績は1月あたりの利用者47名であり、目標を上回った。	R4.10からの和島地域、寺泊地域のエリア統合により、新たな移動が創出された。この統合を機会に、チラシの配布等により広く周知を行い、地域住民に生活交通として定着させ、利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	長岡市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>長岡市内は、鉄道3路線(信越本線、上越線、越後線)が通っており、加えて長岡駅を中心として、放射状にバスを運行している。各方面への基幹路線は整備され、長岡駅との往来手段は確保されている。しかし、バス利用者の減少に伴い、行政負担が増える傾向にあり、結果、特に利用者が少なく、採算が見込めない郊外バス路線の維持が困難となり、市民のニーズに対応できなくなってきた。</p> <p>栃尾地域においては、高齢化率30～40%(網形成計画P9参照)かつ過疎地域であり、鉄道が通っておらず、路線バスが重要な移動手段である。しかし、令和元年9月にバス路線が廃止された西谷地区ほか当該エリアは、栃尾地域中心部から10km以上離れた集落が広範囲に及ぶ。一般タクシーを利用した場合、買物や通院などの日常利用においても、住民の経済的負担が大きく、公共交通の確保・維持が必要不可欠である。また、長岡駅との基幹バス路線に接続することで、地域外への移動も可能となり、その利用目的は、通勤・通学・買物・通院と多岐に渡っている。</p> <p>このため、令和元年10月から、廃止されたバス路線沿線住民の生活交通手段を確保するために、デマンド型乗合タクシーの実証実験を開始した。さらに、市内でも有数の豪雪地帯である当該エリアの運行状況を、冬季2シーズンに渡り検証するため、1年半の期間を設けて実証実験を行い、運行時間や経路の見直し等、利便性の向上及び利用促進に向けた啓発を図った。</p> <p>和島地域においては、高齢化率30～40%(網形成計画P9参照)かつ過疎地域であり、公共交通については、市の拠点である長岡駅に乗り入れている鉄道路線及び路線バス1系統のみとなっている。いずれも他地域への移動を担う幹線的な交通であり、地域内には公共交通空白地が連担している。さらに、地域内で唯一のタクシー事業者が平成26年に廃業し、一般タクシーを利用する際は近隣地域のタクシー事業者を利用することとなるが、いずれのタクシー事業者も保有車両数が少ない。バス路線や鉄道駅、行政施設のある和島地域中心部と、病院、商業施設等は点在しており、自家用車が不可欠であるが、高齢化が進行しているため自家用車以外の公共交通を確保・維持していく必要がある。</p> <p>このため、令和2年10月からは和島地域全域と与板地域2地点を運行するデマンド型乗合タクシーの実証実験を開始し、地域住民の移動手段として認知されてきている。乗合タクシー実証実験では、与板地域の停留所で長岡駅との基幹バス路線に接続することで、地域外や長岡市中心部への移動も可能となり、その利用目的は通院・買物など多岐に渡っている。</p> <p>以上により、主に自動車での移動が困難である高齢者等の利用者にとって、生活交通の確保は必要不可欠であり、他に代替する公共交通手段が存在しないことから、現在実施しているデマンド型乗合タクシーの運行を確保・維持し、安定した運行に繋げ、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>